

税金は、どんな時にも助けになってくれる「ヒーロー」だと私は思っている。そう思うようになったのは、およそ半年前だった。

「ゴー、ドドド」

大きな地鳴りと共に、ぐらぐらと揺れた。

二〇二四年一月一日十六時十分に能登半島地震が発生した。私の住む富山県小矢部市では震度五強を観測した。幸い、私の家に大きな被害は無かったが、小矢部市の中でも他の地区は何日も断水が続き、家の屋根瓦が壊れているところがたくさんあった。また、私の祖父母の家がある氷見市では、断水が続いただけでなく、家が全壊したり、道路にひびが入って通行止めになったりと、とても大きな被害があったそうだ。

そんな中、この地震で被害を受けた人々の暮らしを守ったのは、税金だった。

地震が起きてから、注目されたのは避難所の生活や被災地の現状だった。ここでは、住む場所として集会所や体育館を開放したり、水や食料を提供したりと、できるだけ被災者が不自由なく過ごせるようになっていた。また、壊れた家を片付けるための費用は県や市町村の公費から出されていた。そこで、ふと疑問に思った。被災することを事前に分かっているはずがないのに、なぜ自治体の公費で被災支援できるのか。そんなにたくさんのお金はどこから出てくるのか。調べてみると、そんなことができるのは、私達がいつも何となく納めている税金のおかげだった。その時初めて税金の大切さを実感した。そして、税金が身近なものに感じられた。

今までの私は、税金なんて他人事だと思っていたし、深く考えたり調べたりすることもなかった。しかし、今回の地震を機に、税についてもっと知りたいと思った。

そこで、税金にはどんな種類があるのか調べてみることにした。よく目にする税と言えば、消費税、所得税、住民税、関税などだが、他にも、狩猟税や揮発油税などの私の知らないものもあり、全部合わせると五十種類以上もあった。

また「復興特別税」というのもあり、これは、東日本大震災の復興のための税金である。実際に、集められたお金で、仮設住宅の建設や被災地の復旧、被災者のケアなど色々な所で活用されているそうだ。このことから、私は、地震大国と呼ばれる日本は、みんなの税金で支え合ってきたからこそ、地震に負けることなく発展できたのだと思った。

このように、税金によって私達の快適な暮らしが支えられている。私を取り上げた例は、色々な税金の中の一部である。そして、まだまだ知られていないところで税が活躍している。だからこそ、税金の活躍を知り、大切さを感じてほしい。

これからも私は、みんなのヒーローを支えていきたい。